

第 3599 図

じゅうじばな科



第 3600 図

こもちたまな

一名こもちかんらん、めきゃべつ
Brassica oleracea L.

var. gemmifera Zencker

明治初年に輸入された蔬菜の一種で、タマナと同種、異変種に属し、葉腋に生ずる小葉球を食用とする。茎は太く、高さ30-50cm許あり、葉は茎上に簇生し、質厚く霜白を呈し、倒卵形、短柄、縁辺に粗歯牙がある。成熟すれば下葉の各葉腋より径3-5cm許の小葉球を茎に接着して生じ、茎を覆うに到る。春、葉中より茎を伸ばし、複総状花序を出して、淡黄色の十字形花を開くことはタマナと同様である。別に変種カブハボタン、一名カブカンラン *var. gongylodes L.* がある。高さ10-15cm許、成熟すれば茎の頂部が略々球状に肥大し、その上に長柄のある葉をつける。肥大部をとって食用とする。コモチタマナは子持玉菜、メキャベツは芽キャベツの意。

はなやさい (花椰菜)

一名はなはたん、はなな

Brassica oleracea L. var. botrytis L.

明治の初年に輸入された蔬菜の一種で、タマナ即ちキャベツと同種異変種に属し、その白化した幼花序を食用にする。茎は硬く、著しく肥厚し、上方は更に太く、その表面に大形の葉痕があり、高さ40-80cm許、葉は長さ30-50cm内外、披針形、鋭頭、基部は鈍形で短大な柄を有し、縁辺は波形を呈し、不明の不斉細歯牙がある。葉質は厚く、霜白暗緑色、下面は淡霜白緑色、中肋は白く太い。成熟すれば茎頂に10数葉を密接して生じ平開する中心の葉は小形で、多少相抱いて中に短縮して白色を呈する平頭多肉の幼若な複総状花序を包む。ハナヤサイは漢名花椰菜の重箱読み。

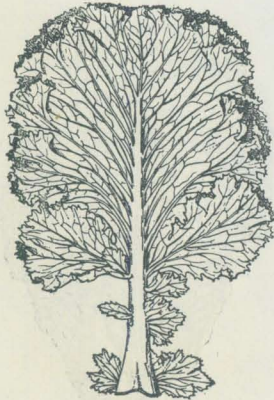
はぼたん

Brassica oleracea L. var. acephala DC.

タマナ一名キャベツと同種異変種であり、冬期の活花用に広く栽培される。茎は著しく太く、先太で、帯紫色、直立し、表面に大形の葉痕を印し、高さ20-60cm許ある。葉は闊大、広倒卵形、円頭、基部は往々分裂して円頭の裂片をなし、葉柄は太く短かく、白色を呈し、時に附属耳片を伴う。葉質は厚く、表面は霜白色、葉縁に不斉歯牙が多い。成熟した株に於ては茎頂に数10葉を相接して生じ、互に半ば抱き合い、中心部の葉は漸次小形となり、且つ縁縁は著しく縮れて波状を呈し、秋冬の候、紅、紫或は淡黄、白を帯び、頗る美観を呈する。この変種は約170余年前に輸入され、本邦を中心に品種淘汰が行われた。花及び果実はタマナと同様である。和名は葉牡丹の意である。

第 3601 図

じゅうじばな科



みつばふうちょうそう

Polanisia trachysperma T. et G.

(=*Cleome trachyspermum Rafin.*)

メキシコ原産の1年生草本で、稀に觀賞のため庭に栽植される。茎は高さ60-80cm許、直立して僅かに分枝し、全株に粘毛を有し、葉は長柄を有して互生し、3出複葉をなし、長さ3-5cm許、小葉は卵状披針形、鋭頭、基部は中央片は楔脚、側片は鈍脚で左右不同、全縁、縁縁に微毛がある。夏秋の候、梢頭に円頭の総状花序をなして、長柄を有する淡紅色又は白色の花多数を開く。花は小梗の基に単一の葉状苞を有し、萼裂片は4個、披針状舟形、長さ4mm許、花弁又4個、やや直立し、狭い筒形で基部は長爪をなし先端は凹入、長さ4-8mm許、多数の雄蕊には長短不同、紫色を呈する長さ2cm許の花糸があり、花後長さ5cm許で、微毛のある無柄の長蒴を結ぶ。

つるきげまん

一名つるけまん

Corydalis ochotensis Turcz.

本州中部及び関東の山地に産する2年生草本で、地下に塊茎がなく、全株白粉を被って蒼綠色を呈し、無毛、茎は軟弱で長く伸長して散開し、枝及び花序を斜上する。葉は概形卵形、有柄、互生、再三全裂し、最終の小葉は全縁又は2-3裂、有柄、裂片は狭倒卵形。夏秋の候、総状花序を葉腋より出して淡黄色の数花を疎に稍側偏して開く。花梗は細く斜下向し、基部に花梗と略々同長の披針状卵形全縁の苞がある。花は一方は2層状に開き、一方は少々彎曲して先端の細まる長距があり、花中に2体をなす6雄蕊を入れる。蒴果は扁平な狭倒卵状長橢圓形、やや垂下する。

すなずる

Cassytha filiformis L.

尾久島、小笠原島以南の南方各地の海岸に生ずる無葉寄生の蔓性植物である。茎は糸状、無毛で、黄色又は橙黄色を呈し、長く伸びて巻絡し、吸取根を以て他植物につく。葉は小形の鱗片状をなし、長節間をへだてて互生する。周年、茎の所々から長さ3-4cm許の穂状花序を直立して多少屈曲して数個の花を疎生し、下方から順次開く。花は無梗卵形で、花茎に密接して斜上向し、長さ2.5mm許あり、基部に小苞2個があり、花被片6個、無毛、外花被片3個は小形で卵形鈍頭、内花被片3個は大形卵状長橢圓形、下部は互に融合し、果時には球状或は鐘状をなして子房を囲む。雄蕊9個は3輪をなし内方の1輪をなす3個は花糸の基部左右に腺体を伴い、雌蕊1個は有毛、卵形の子房を有し、短い花柱は直立して、花被筒部の口から少しく出る。宿存する花被に包まれた果実は径6mm許、球形、熟して白色となる。

第 3602 図

ふうちょうそう科



第 3603 図

けし科



第 3604 図

くすのき科

